工事説明書

ガスふろがま

品　名　**GSY-133E**　＜AC100V電源タイプ＞

■工事される方へお願い

・この工事説明書の記載内容をはずれた設置が原因で生じた故障及び損傷は、保証期間内であっても有料修理になります。
・工事終了後、「工事後の点検」のチェックリストに基づいて再確認して下さい。
「試運転」と「お客様への取扱説明」を行って下さい。（お客様からのクレーム防止のため、必要です。）
・工事終了後、取扱説明書（保証書付）の保証書に必要事項を記入し、必ずお客様に渡して下さい。

工事後の点検　工事が終わったら、チェックリストに基づいて必ず再確認を行う。

●チェックリスト

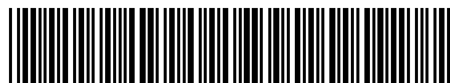
点検項目		点　検　内　容	参照ページ	ﾁｪｯｸ
機器及びその周辺	ガ　ス　種	銘板は使用するガス種に適合していますか。	2	
	電源（電圧・周波数）	銘板は使用する電源電圧（AC100V）・周波数（50･60Hz）に適合していますか。	8	
	不燃材料以外の材料との離隔距離	不燃材料以外の材料との離隔距離、火災予防上の措置は十分ですか。	3,4	
	設　置　条　件	障害物、窓などとの離隔距離は十分ですか。	4	
	保守・管理上の空間	点検・修理に必要な空間はありますか。	4	
	安　定　設　置	強固に設置され、ガタツキはないですか。	5,6	
	給　排　気	十分給排気できる場所に設置されていますか。	3,4	
循環パイプ		勾配の基準をまもっていますか。	6	
		接続部からの水漏れはありませんか。	6	
ガス接続工事		接続は正しく施工され、ガス漏れはありませんか。	11	
試運転		試運転は正常でしたか。	11	
お客様への説明		正しく快適に使用してもらうため、説明しましたか。	1	

試運転

11 ページに基づいて、必ず試運転を実施して正常に運転することを確認する。

お客様への取扱説明

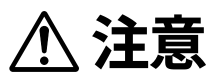
・取扱説明書に従って「使用方法」を説明する。
特に取扱説明書の「必ずお守りください（安全上の注意）」をよく説明する。
・保証書に必要事項を記入する。
また、取扱説明書の「アフターサービスについて」を説明する。
・取扱説明書（保証書付）をお客様に渡して下さい。

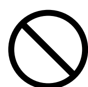
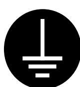

SAQ8228　C

SAQ8228②

1. 安全上の注意

工事を誤った場合に危害･損害の程度を、次のように区分しています。
いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守る。

	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が傷害を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

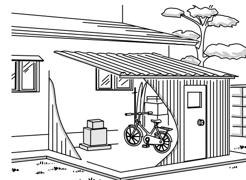
 一般的な禁止　 電源プラグを抜け　 必ずアースを接続せよ　 必ず行うこと

⚠危険

● 屋外設置形です。
屋内（浴室内含む）への設置は絶対にしない。
また、波板などによって簡易な囲いもしない。
　一酸化炭素中毒の原因になります。







⚠警告

・機器を正しく安全にご使用いただくため、この工事説明書をよく読んでから、指定された工事を行う。
・(財)日本ガス機器検査協会発行の「ガス機器の設置基準及び実務指針」を参照する。
・積雪で機器の給気口及び排気トップがふさがれる恐れがある場合は、防雪の措置を行う。
・機器の設置・移動及び付帯工事には専門の資格・技術が必要です。工事は必ずお買い上げの販売店または専門業者に依頼し、有資格者による正しい工事を行う。
・設置工事が終わったら、この工事説明書に基づいて設置されていることを確認する。

⚠注意

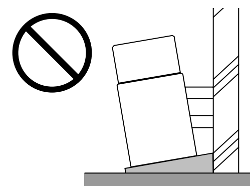
・銘板（ラベル）に表示してあるガスの種類（ガスグループ）で使用する。ガスが適合していることを確認する。
・電源はAC100V、50／60Hz共用です。
　表示以外の電源で使用すると、火災・感電の原因になります。
・この機器は、おふろ沸かし以外には使用しない。
　機器の故障の原因となります。
・業務用のような使いかたをしない。
　家庭用機器ですので、業務用など長時間使用すると、機器の寿命が極端に短くなります。
・温泉水、井戸水、地下水は使わない。
　水質によっては、異物が付着したり、腐食して水漏れすることがあります。
　この場合は保証期間内でも有料修理になります。

（12A,13Aの場合）

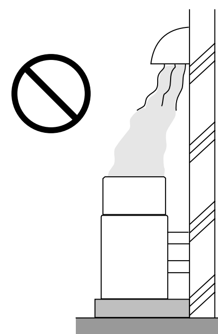
型式　○○○○○○
設置の方式　○○○○○○
都市ガス用
13A　12A
定格電圧　AC100V
定格周波数　50／60Hz
定格消費電力　○○○○○○
□.□－□
製造年　製造月

2.設置場所の確認

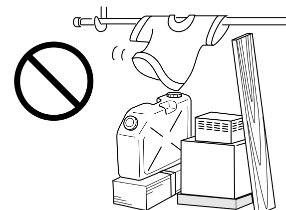
⚠注意



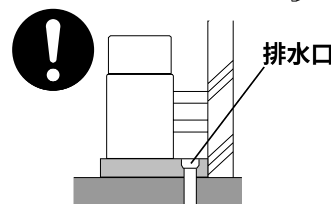
- 設置する場所の周囲の壁・天井などが防火上安全なものであるか
  または防火上有効な間隔をとることができる場所に設置する。
- 平らな安定した場所に設置する。
- ガスメーター・ガス配管・ガス容器などの点検に支障のない場所に設置する。
- 周囲に障害物がなく、空気の流れが停滞することのない場所に設置する。



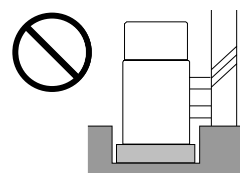
- 換気扇・レンジフード・エアコンなどの吹き出し口が給排気に影響を与えない場所へ設置する。
- 隣家に、運転音や熱風の吹き込みなどの迷惑がかからない場所に設置する。
- 人の出入りの激しい所、燃えやすい物に近い所へは設置しない。
- 階段・避難口近くへは設置しない。
- 引火性危険物(ガソリン・ベンジン・接着剤など)取り扱い場所または腐食性ガス(アンモニア・塩素・イオウ・エチレン化合物・酸類)の発生する場所には設置しない。
  故障や火災の原因になります。



- 水平で水はけの良い場所に設置する。
  水はけが悪く、雨の後などで機器の設置面に水が溜まると機器底面が腐食し、思わぬ事故が発生します。
- 排気ガスが浴室内へ流入しないようにする。
- 保安点検に必要なスペースが確保できるか確認する。



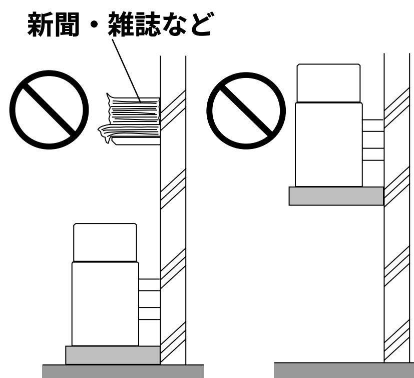
- 塩害が考えられる地域(海に近く潮風が当たりやすい地域)での注意
  機器本体の設置は建物の風下にする。
  やむを得ず海岸面に設置する場合でも防風板を設けるなどで、直接潮風が当たらないようにする。
  水はけの良いところに設置する。
- 機器の近くに排水口を設けて、機器が水没しないよう設置する。



- 落し込んで(ピット)設置しない。

※万一、落し込んで設置する場合は、ピット内に必ず排水口を設ける。
また、給気口をふさがないように設置する。

- 砂や綿など、ほこりのたちやすい場所には設置しない。
  ほこりが給気口をふさぎ、不完全燃焼の原因になります。
- 棚の下など､落下物の危険のあるところには設置しない。
- 壁面から据え付け台を突き出して設置しない。
- 排気ガスが、直接建物の外壁や窓・網戸・アルミサッシなどに当たらないように設置する。また、動植物への影響も考慮する。
  変色・破損・腐食、動植物への危害の原因になります。
- その他､地域によって火災予防条例に規制される項目がある場合､その条例に従って設置する。



3. 機器の設置基準

⚠ 注意

<table>
<tr><th>項目</th><th colspan="2">注　意　事　項　と　説　明　図</th></tr>
<tr><td rowspan="2">不燃材料以外の材料との離隔距離</td><td colspan="2">※施工される前に以下のことを確認する。
燃焼機器を設置する場所には、建築基準法や電気設備技術基準・ガス事業法・液化石油ガス法・消防法に基づく火災予防条例に定める防火処置を施す必要があります。
次の事項の他、当該地区の市・町・村火災予防条例に従う。

● 機器と「不燃材料以外の材料による仕上げをした建築物などの部分」とは、次の離隔距離をとる。
（　）内は防熱板及び「不燃材料で有効に仕上げをした建築物などの部分」との寸法です。</td></tr>
<tr><td colspan="2">
設置する床面が不燃材料以外の材料の場合は、不燃材料で仕上げるなどの防火処置を施す。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">設置場所の周辺について</td><td>● 排気ガスが建物の中に入らないよう、開口部のない場所に設置する。
※ 排気口と開放可能な窓・換気口など・建物開口部との離隔距離は右記の基準を守る。
換気扇の排出部・熱交換形換気扇の給気口は、燃焼排ガスが流入する恐れのある開口部にあたります。

※ 隣家の窓付近などに排気ガスが吹き付ける位置には、設置しない。</td><td></td></tr>
<tr><td>● 機器の修理・点検のため、機器前方（ガス接続口のある側）は、600mm以上の空間を設ける。

● 機器の修理・点検が困難な場所には設置しない。
また、機器の脚は絶対にセメントなどで埋め込まない。
修理・点検ができなくなります。</td><td></td></tr>
</table>

4. 付属部品の確認

梱包内には、取扱説明書(保証書付)、工事説明書の他に、下記の付属部品が入っております。取り付けの前に確認する。

部　品　名	形　　状	個数	部　品　名	形　　状	個数
連結ゴム		2	締付バンド		4
RC-326ST		一式	屋外カバー		1
袋ナット		1	壁パッキン		1
スリップ防止パッキン		1			

5. 機器の設置

※設置時、落下させたり、衝撃を加えたりしない。機器内部の部品が破損することがあり危険です。

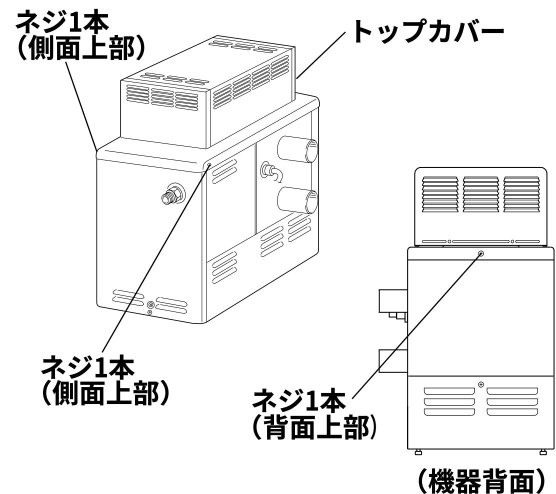
項目	注　意　事　項　と　説　明　図
据え付け台について	●据え付け台を設ける場合は、機器の底面積より十分大きく、壁まで設ける。 ※以下のような場合、強風時に不完全燃焼などの原因になります。（右図参照） （1）据え付け台の中央部に空間がある。 （2）据え付け台と壁の間に空間がある。 壁まで設ける (1) (2) 空間がある

項目	注　意　事　項　と　説　明　図
浴槽と循環パイプの取り付け	● 保守・点検がしやすいように、現場の条件に合わせて循環口方向を決める。 →循環口方向を変更する場合は、7ページの「循環口方向の変更方法」を参照。 ● 下部循環口の高さは、浴槽底部から100mm程度が標準です。 また循環口の間隔は、120mm位にする。 ● 循環パイプは、必ず上部は「上り勾配」、下部は「下り勾配」に取り付ける。 ※循環パイプは付属していません。現場で手配する。 ※上部循環パイプが逆勾配になる《下図例(1)参照》と、循環不良を起こし、お湯が熱交換器内で沸騰して「ボコン、ボコン」と異音が発生したり、消火します。 ※下部循環パイプが逆勾配になる《下図例(2)参照》と、機器内の水が排水されないため、機器内の凍結・破損の原因になります。 ●機器の循環口と循環パイプを、連結ゴム・締付バンドを使用して取り付ける。 ●連結ゴムと循環口及び循環パイプの接続部から水漏れがないか確認する。
悪い設置例	(1) 上部循環パイプが逆勾配 (2) 下部循環パイプが逆勾配 (3) 浴槽と機器の高さのずれ

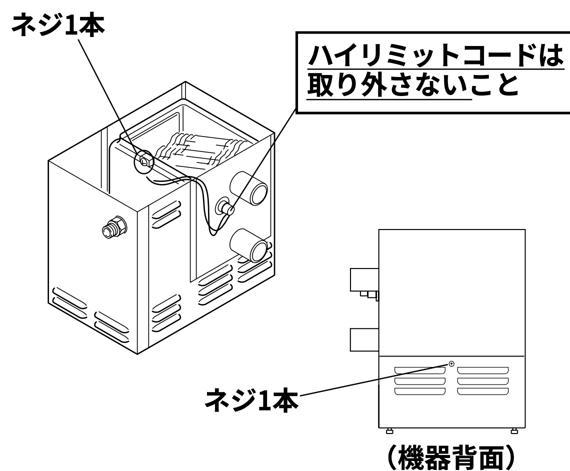
6. 循環口方向の変更方法

下記の方法で、左循環口、後循環口への循環口方向の変更ができます。

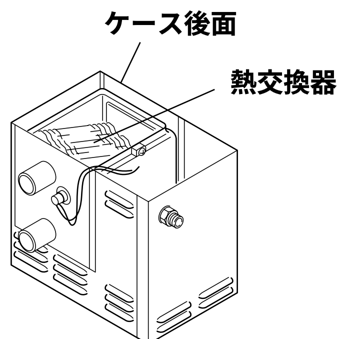
1.トップカバー固定ネジ3本を外す。



2.機器内のネジ1本と背面のネジ1本を外す。
（ハイリミットコードを引き出す。）



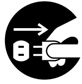
3. 熱交換器にケース後面が付いた状態で、持ち上げて外し、循環口方向を変更して取り付ける。



4. 逆の手順で取り付ける。
（左循環口にした場合は、ハイリミットコードの取り出しも左側にする。）
※ハイリミットコードをケースにかみ込むなどして、断線させない。

7. 電気配線工事

電力会社の指定工事店に相談する。



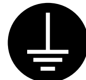
すべての電気配線工事が完了するまで、機器本体の電源プラグはコンセントに差し込まない。感電、機器の故障の原因となります。

- 機器から1.5m以内にコンセントが必要です。（電源コードの長さは約1.8mです。）
- 機器の電源は交流100V（50/60Hz）です。消費電力は銘板で確認のうえ必ずこれに適したコンセントを設ける。
- コンセントはJIS防雨型を使用する。

※ やむを得ず防雨型以外のコンセントを使用する場合は、雨線内に設置するか適切な防水箱内に収めるかまたは屋内の分電盤を利用する。

- 防雨型コンセントを使用する場合は、地上より300mm以上の高さの位置に取り付ける。
- コンセントとガス管及び水道管とは、100mm以上離す。
- 電源コードはガス管と接触しないようにする。
- 電源コードが余った場合は、機器外でまとめ機器内には入れない。
  機器の故障の原因になります。
- 落雷の多い地域では、電源プラグは屋内でお客様が安全に抜き差しできる場所に設置する。

■接地（アース）工事



- 万一の感電事故防止のため、電気工事士によるD種接地工事（接地抵抗100Ω以下）を必ず行う。
- 接地端子は機器の前面にあり、アース表示しています。

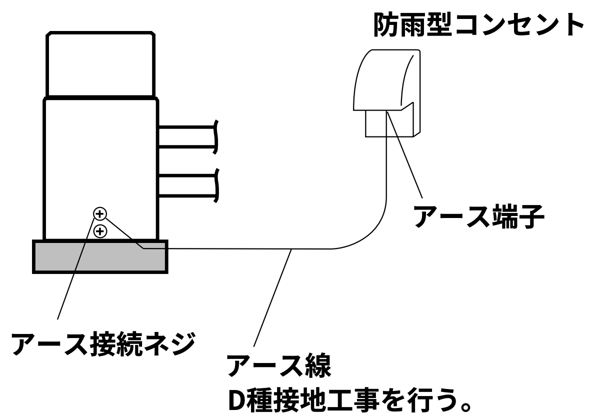
※ D種接地工事は法令で規定されています。
基準に適合しない場合は機器の使用停止を命じられる場合があります。

> 水道・ガス配管には接地（アース）しないで下さい。また、電話・避雷針のアースにも接続しない。

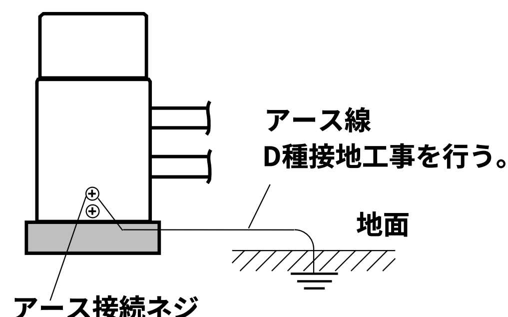
■漏電遮断器の設置について

- 電気設備に関する技術基準により漏電した時、自動的に 電路を遮断する装置（漏電遮断器）を、電源側に設ける。

●JIS防雨型アース端子付の場合



●JIS防雨型アース端子付でない場合



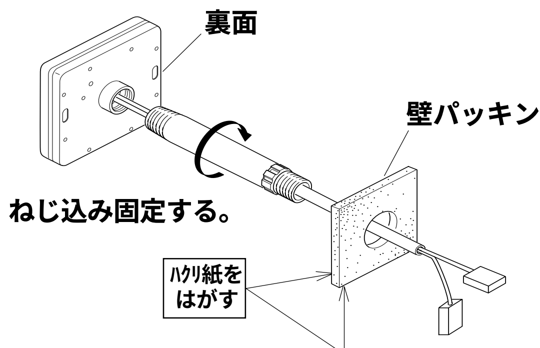
■リモコンの取り付け

■設置場所のご注意

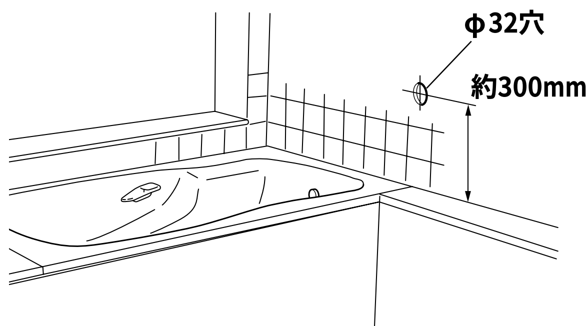
- 低電圧で防水もしており危険はありませんが浴室内のなるべくお湯または、水のかからない場所で操作しやすい所に設置する。
- 特殊薬品を使用する場所への取り付けは避ける。（ベンジン、油脂系の洗剤など）
- 屋外や直射日光のあたる場所への取り付けは避ける。

■リモコンの取り付け

（1）ステーパイプをリモコン本体にしっかりとねじ込みます。次に壁パッキンを通してリモコン本体裏面に貼り付ける。

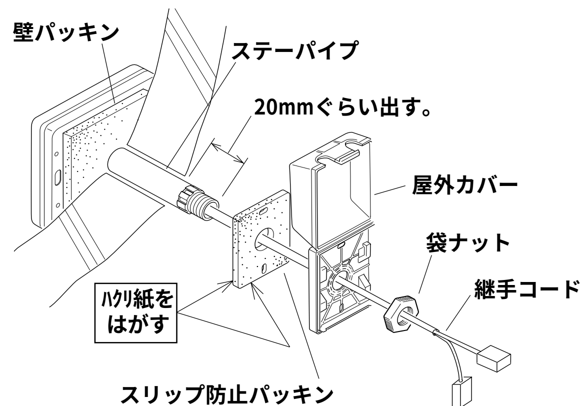


（2）壁にφ32mmの貫通穴をあける。

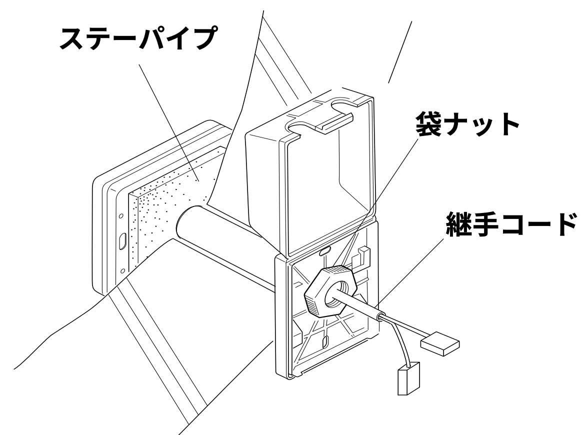


（3）壁穴に継手コードを通したステーパイプを挿入する。

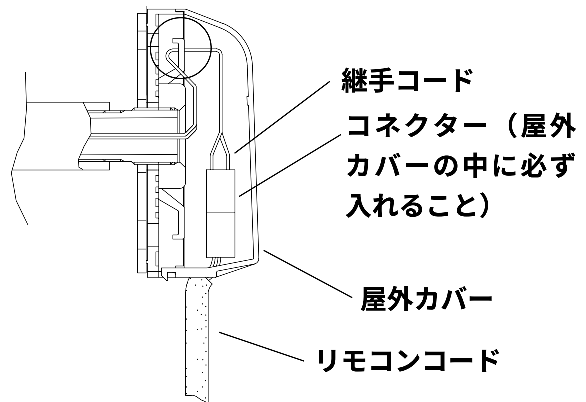
（4）スリップ防止パッキン、屋外カバーを外壁側に出した継手コードに通す。



（5）袋ナットに継手コードを通し、ステーパイプに締め付ける。



（6）屋外カバーの中でコネクターを接続します。コネクターが屋外カバーの外に出ないように、継手コードを図のところに巻いて処理する。

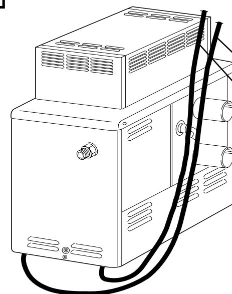


長さのあまったリモコンコードは屋外カバー外でまとめる。

（7）屋外カバーを閉める。

リモコン施工時の注意

リモコンコード、電源コードが排気トップに接触しないようにする。



電源コード

リモコンコード

8. ガス配管工事

ガス工事については、ガスの供給業者の指示に従う。

■ガス栓

- 機器を使用する場所にガス栓がない場合、あるいは、あっても位置や寸法などが適切でない場合には、新設・移設または交換などが必要ですので、ガスの供給業者にご相談のうえ、専用のガス栓を取り付ける。

■ガス接続について

- この機器は、強化ガスホースまたは金属可とう管で接続します。ゴム管は使用しない。
- ガス配管口径は、機器の接続口径以下にしない。
- 配管接続後、接続部のガス漏れを調べる。
- ネジ接続のガス配管工事については、有資格者による工事が必要です。

■ガスメーターについて

他の燃焼機器と同時に使用しても、機器に十分ガスが供給できるガスメーターを取り付ける。

■LPガスの容器について

LPガスの容器は50kg 2本を併用する。
また、機器から2m以上離して設置する。

※強化ガスホースまたは金属可とう管の長さは、ホースに異常な力がかからないように注意する。
※曲げ半径は90mm以上で接続する。

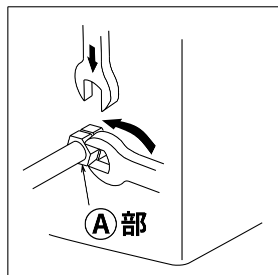
(1) 強化ガスホースまたは金属可とう管のオネジ部にシール剤もしくはシールテープを使用し、ガス栓に強化ガスホースまたは金属可とう管を締めつける。

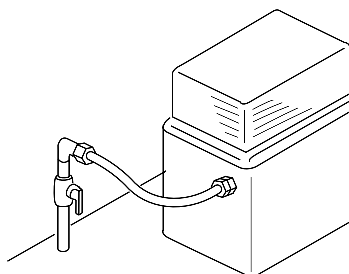
※ガス栓にも必ずスパナをかけて、強化ガスホースまたは金属可とう管を締めつける。

(2) 機器側接続部に強化ガスホースまたは金属可とう管の袋ナット部を締めつける。

※袋ナット部に付属のパッキンが挿入されていることを確認する。
※袋ナットを締めつける時、強化ガスホースまたは金属可とう管がねじれないように、Ⓐ部及び、機器側の六角ボルト部にスパナをかけて袋ナットを締めつける。

(3) ガス栓を開とし、接続部にガス漏れのないことを確認する。





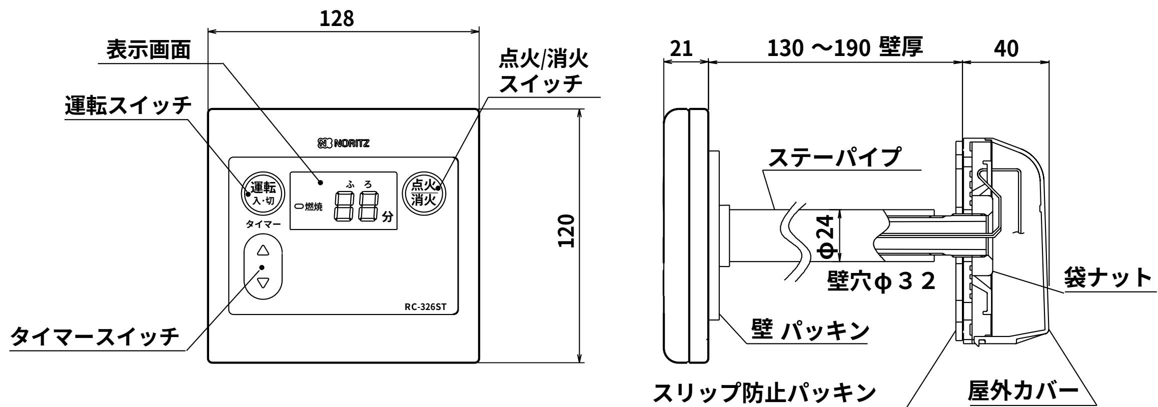
9. 試運転

- 取扱説明書の「使いかた」に基づき試運転を行い、正常に作動することを確認のうえ、お客様に使用方法を説明して、取扱説明書を渡して下さい。
  ※ 点火操作は、必ず浴槽に水を張ってから行う。
- 正常燃焼しない場合は、取扱説明書の「故障・異常かな？と思ったら」を参照する。
- すぐに使用しない場合を除き、試運転終了後、運転スイッチを切にして、ガス栓を閉じる。

10.外形寸法図

● RC-326ST

（単位：mm）



● GSY-133E

（単位：mm）

